

湖南省下水道事業

下水道使用料改定に係る説明資料

令和8年7月17日

第1回 上下水道運営審議会

湖南省上下水道事業所 上下水道課

本日の説明内容

第1章 はじめに

本資料の位置づけ、諮問事項、審議会の進め方

第2章 下水道事業のしくみ

下水道事業の目的・役割、湖南市の事業概要、企業会計の仕組み

第3章 現在の経営状況

料金の現状と変遷、使用料単価と処理原価、一般会計繰入金、経営努力

第4章 今後の経営環境

経営環境の変化、流域負担金、人口減少、老朽化・耐震化、収支見通し

第5章 料金改定の検討に向けて

料金改定検討の必要性、今後の審議スケジュール、まとめ

はじめに

本市は、下水道事業を市民の生活環境の向上と公共用水域の水質保全を支える重要な社会基盤として整備・運営してきました。

本来、下水道事業は使用料収入により経営する独立採算を基本としていますが、近年の社会経済情勢の変化や経営環境の影響により、その運営は一層厳しさを増しています。

【厳しさを増す要因】

- 人口減少等による使用料収入の減収
- 施設の老朽化に伴う更新費用の増大
- 維持管理コストの増大

今後も安定したサービスを継続していくためには、下水道事業の健全な経営の確保が不可欠です。

本審議会では、下水道使用料の見直しについて検討を進めご意見をいただくものです。

諮問事項

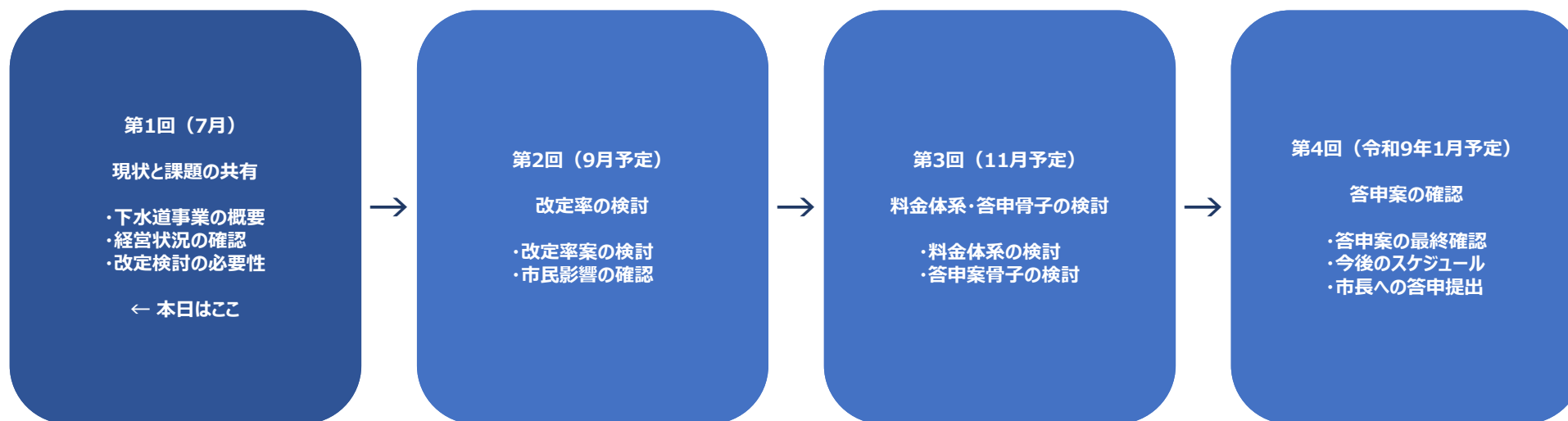
市長から審議会への諮問事項は以下の3点です。

1. 使用料改定の必要性および改定率の妥当性について
2. 改定後の使用料体系（料金体系の構成）について
3. 改定の実施時期及び段階的措置の適否について

答申期限：令和9年2月（目途）

審議会の進め方（4回予定）

令和8年度中に下水道使用料改定に係わる審議会を4回程度開催し、答申を取りまとめます。



※ なお、上下水道事業に係る例年の議事については、別途開催予定です。

本日の目標

本日の説明では、皆さまに次の2点をご理解いただくことを目標とします。

1

現状と今後の見通し

本市下水道事業の現状と今後の経営状況の見通しについて、ご理解いただく。

2

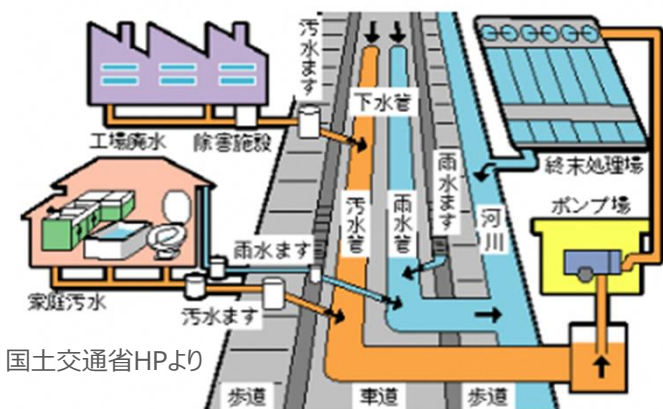
料金改定の必要性

料金改定無しには持続可能で安定的な下水道事業を継続できないことをご理解いただく。

下水道事業の役割

下水道事業は、市民生活の衛生環境の確保と公共用水域（琵琶湖）の水質保全を担う重要な公共インフラです。

下水管には、汚水管と雨水管があります。汚水管はポンプ場を経由して処理場へ、雨水管は河川に接続されます。



国土交通省HPより

湖南中部処理区



滋賀県HPより

▲湖南中部浄化センター（草津市）

各家庭からの汚水を集める汚水管
(湖南市下水道)

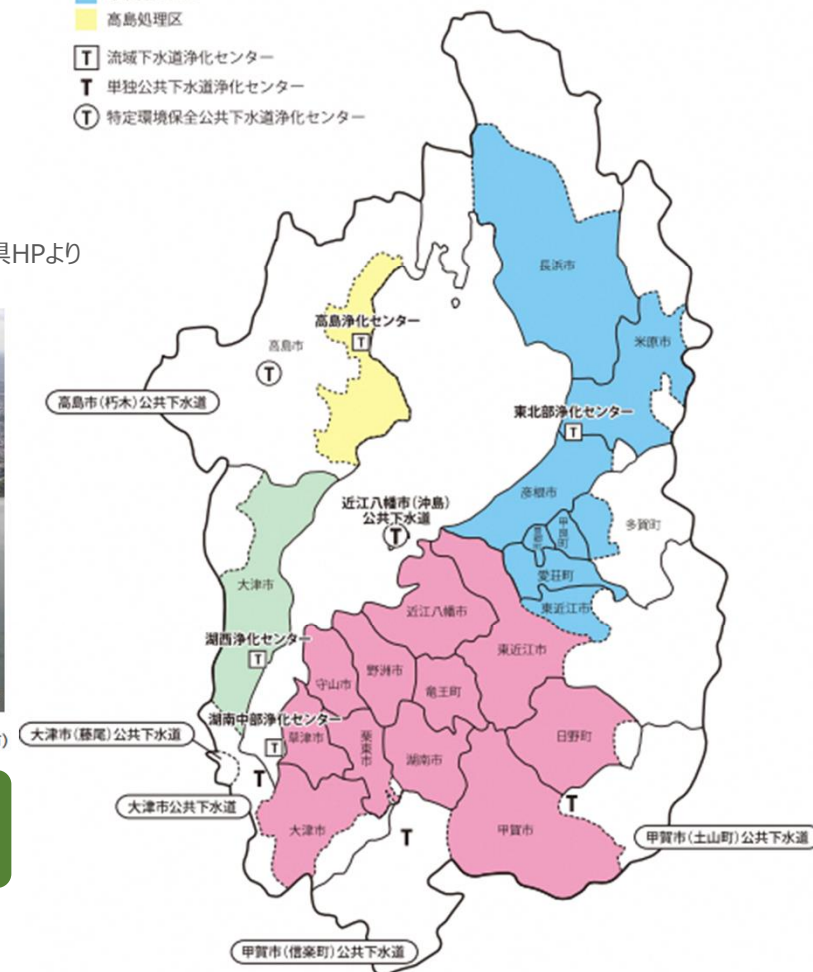
各市町村からの汚水を集める汚水管
(滋賀県下水道)

湖南中部浄化センター
(滋賀県下水道)

※滋賀県下水道＝琵琶湖流域下水道

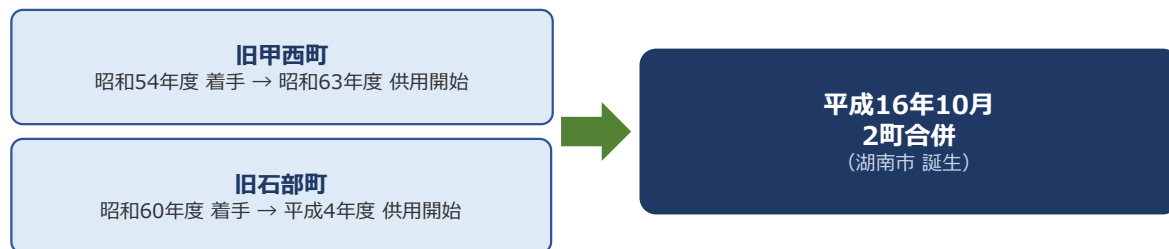
- 湖南中部処理区
- 湖西処理区
- 東北部処理区
- 高島処理区

- Ⓘ 流域下水道浄化センター
- Ⓙ 単独公共下水道浄化センター
- Ⓢ 特定環境保全公共下水道浄化センター

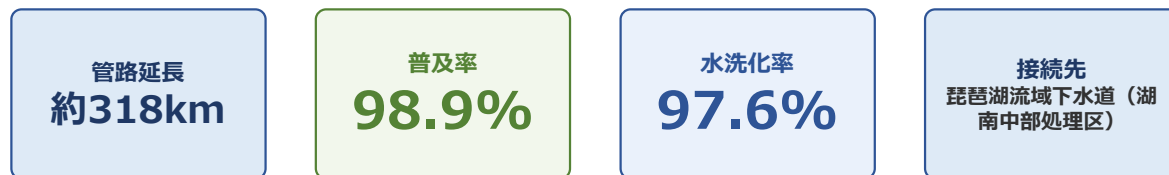


湖南省下水道事業の概要

■ 事業のあゆみ（沿革）



■ 主要指標（R7年度末）



滋賀県下 19市町中 第9位

滋賀県の下水道普及率は93.4%で全国6位

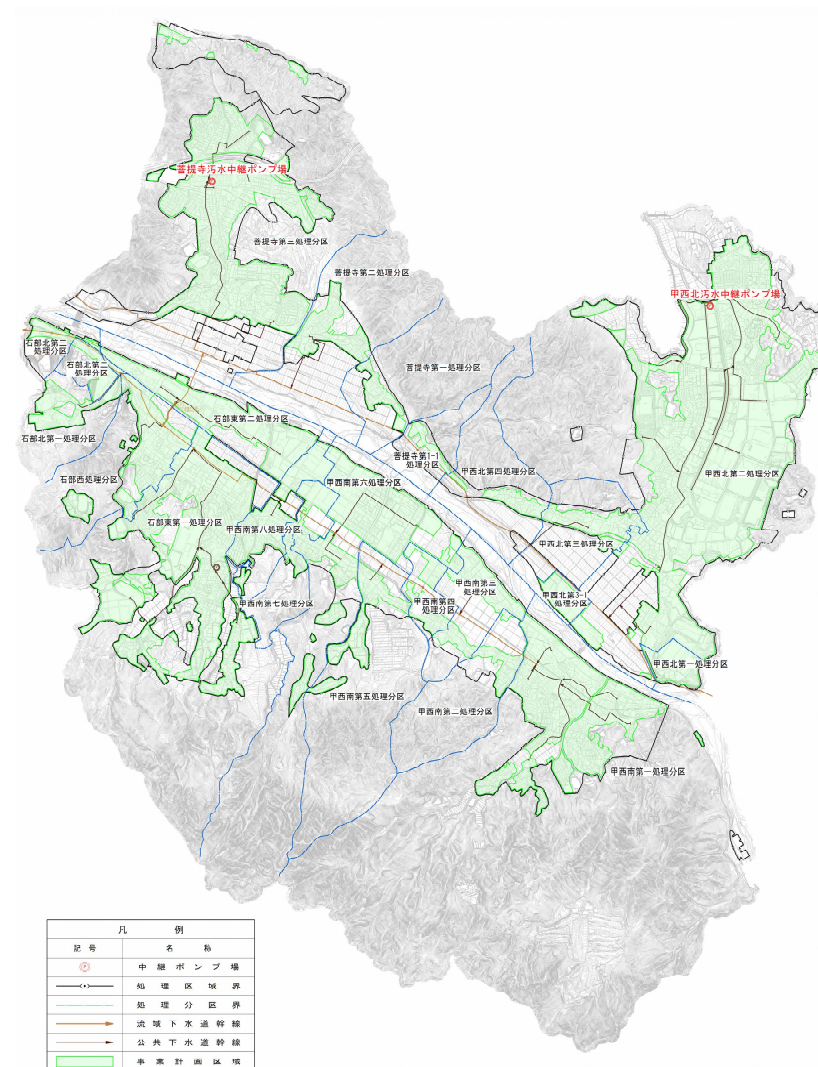
■ 用語の説明

普及率

行政区域内の人口のうち、下水道を利用できる環境にある人の割合

水洗化率

下水道を利用できる人のうち、実際に接続している人の割合



下水道整備の沿革

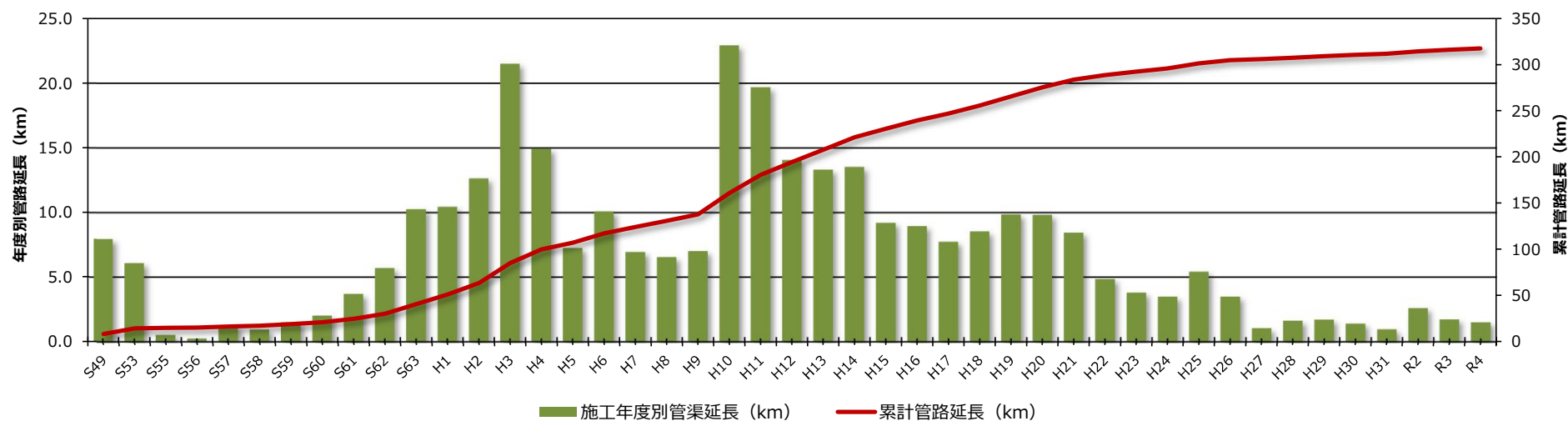
本市の污水整備は、公共下水道事業として旧甲西町で昭和54年から、旧石部町で昭和60年から整備に着手し、それぞれ昭和63年、平成4年から供用を開始しています。

旧甲西町着手以前の管渠については、住宅団地等の開発時に敷設された污水排除施設（コミュニティプラント）が市に移管されたものを含んでいます。

管路延長については、昭和63年度から大幅に増加し、平成3年度に第一回目のピークを迎えています。

その後、平成5年度から幹線（大口径管路）の延伸整備を進め、平成10年度では、1年で約23kmの管路を整備を行う二度目のピークを迎えています。

その後着実に整備を進め、令和7年度末時点で管路総延長は約318kmに達しています。

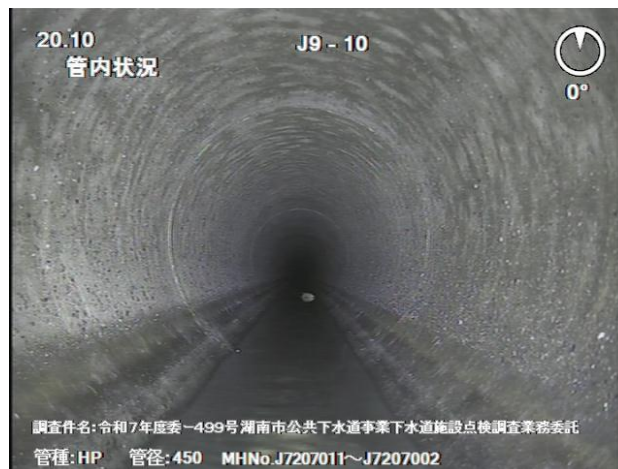


ストックマネジメントと更新工事

下水道施設を効率的に管理するために、管渠内のカメラ調査や人孔調査結果を基に、施設状況を評価し、計画的に施設整備を行っています。このように点検・調査、修繕・改築を一体的にとらえて計画的に管理するストックマネジメントを行っています。ストックマネジメントとは、既存の下水道施設の老朽化状況等を把握し、長期的かつ効率的に継続使用するための維持管理、更新等の計画のことです。



下水道管の状態を確認するカメラ調査風景



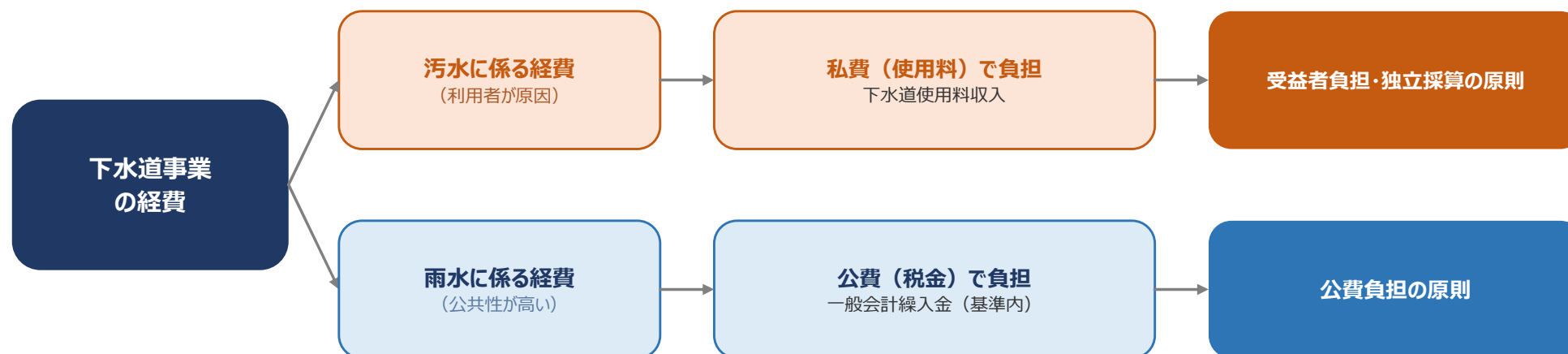
カメラ調査で撮影した下水道管内の様子



新たな下水道管渠を布設する工事の様子

独立採算・公費負担・受益者負担の原則

湖南省の下水道は、各家庭からの生活排水などの「**汚水**」と、屋根や道路に振った「**雨水**」を、別々の管に分けて流す**分流式**です。
下水道事業の**費用負担**には、以下の**原則**があります。



下水道事業の収入について

下水道事業は、**使用料・一般会計繰入金・企業債・国庫補助金**などを、支出の性質に応じて組み合わせて運営します。
基本は「**雨水公費・汚水私費**」です。

収入の主な種類

使用料

汚水処理に係わる、利用者負担

一般会計繰入金

市全体で負担する、経費等に充当

国庫補助金

施設整備などへの国の支援

企業債

整備費を長期で分担する資金
銀行等からの借入れ

一般会計繰入金の区分

基準内繰入金

国の繰出基準に基づく繰入金

例：雨水処理費、分流式下水道等に要する経費 など
市全体で負担することが妥当な経費

基準外繰入金

繰出基準によらず、事業状況に応じて行う繰入金

不足した資金を補う財源

※ 繰入金の区分は、総務省「地方公営企業繰出金」における繰出基準の考え方に基づく整理です。

財源ごとの役割を整理し、使用料・公費・借入等を組み合わせて、持続可能な事業運営につなげます。

公営企業会計の2つの収支

下水道事業では、毎年の運営に必要な費用だけでなく、管路や処理施設を整備・更新するための大きな費用も発生します。この2つは性質もタイミングも異なるため、公営企業会計では別々に整理して経営の姿を捉えます。

収益的収支（3条予算）

= 毎年の事業運営の成績表

収入：使用料、一般会計繰入金、長期前受金戻入 など

支出：維持管理費、支払利息、減価償却費 など

見るポイント：毎年の経営が成り立っているか

資本的収支（4条予算）

= 施設整備と借入返済の資金表

収入：企業債、国庫補助金、出資金 など

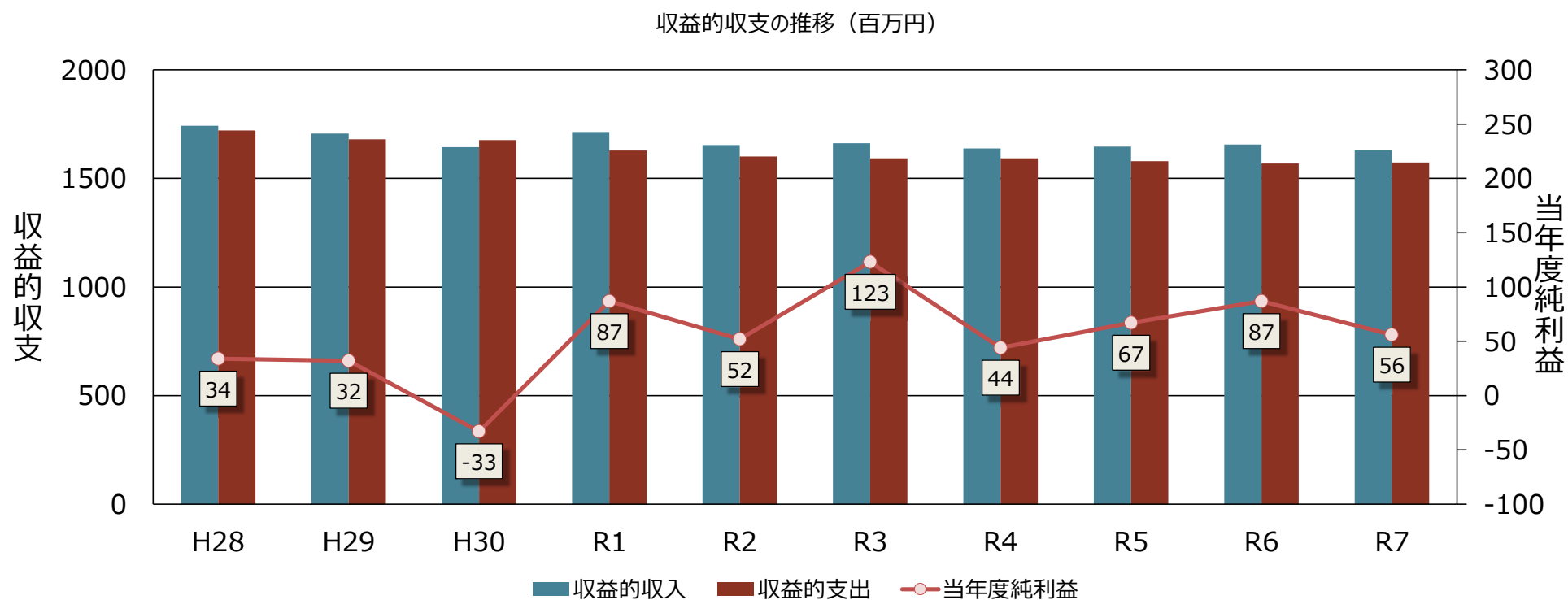
支出：建設改良費、企業債元金償還金 など

見るポイント：将来の施設整備・借入返済に対応できるか

公営企業会計は「毎年の経営」（収益的収支）と「将来の施設整備」（資本的収支）を分けて見る仕組みです

これまでの決算推移収益的収支（3条）

これまでの経営では、毎年黒字経営を行ってきました。



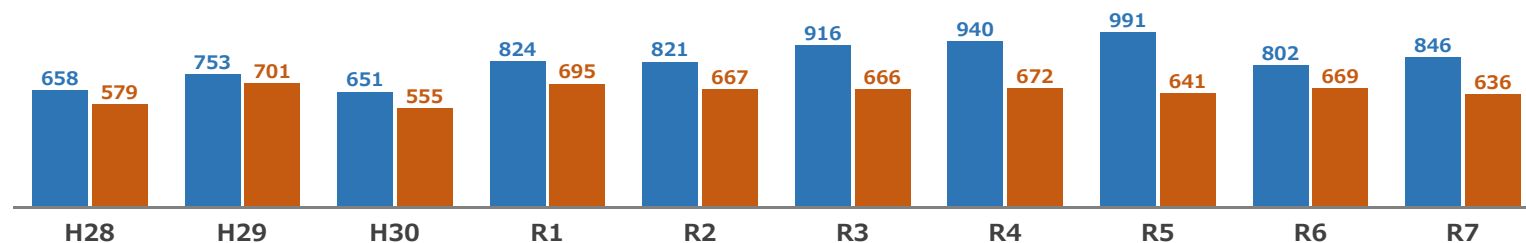
これまでの決算推移資本的収支（４条）

資本的収支においても、一定ペースでの建設改良を可能な枠内で健全に行ってきました。

（単位：百万円）	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
資本的収入	981	871	1160	994	975	1035	1093	1069	1044	911
資本的支出	1559	1572	1714	1689	1642	1701	1765	1710	1712	1547
不足額	579	701	555	695	667	666	672	641	669	636
補填財源使用可能額	658	753	651	824	821	916	940	991	802	846

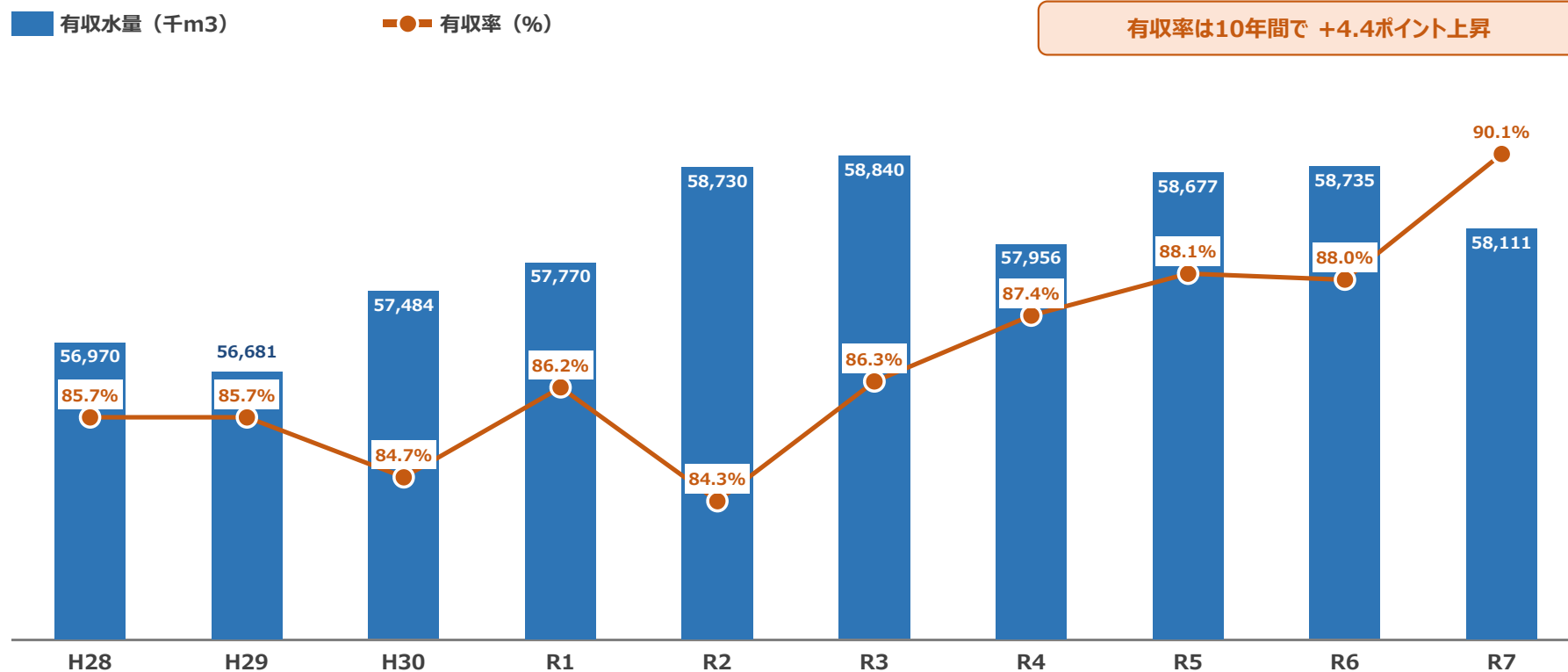
（百万円）

■ 補填財源使用可能額
■ 不足額（収支差）



これまでの経営努力有収水量・有収率の推移

有収水量は節水・人口推移により横ばい傾向ですが、有収率は増加傾向にあり、収入面での経営努力を行ってきました。



【用語の説明】 ■ 有収水量…実際に収入につながった水の量を表します。
 ■ 有収率…配水した水量のうち、料金収入になった水量の割合（有収水量÷配水量）。漏水などが少ないほど高くなります。

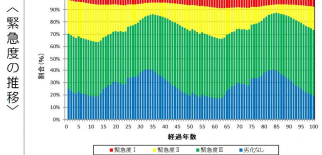
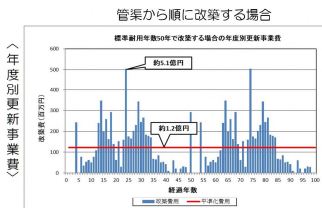
これまでの経営努力投資計画の策定

効率的に管路維持を行うため、施設の劣化状況を踏まえたストックマネジメント計画を策定し、施設更新に取り組んできました。

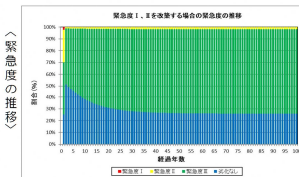
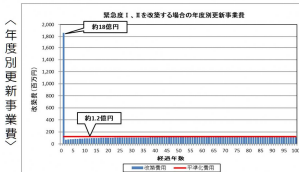
（緊急度Ⅰ…最も緊急性の高い判定であり1年以内に対策が必要）（緊急度Ⅱ…比較的緊急性の高い判定であり5年以内に対策が必要）

R6ストックマネジメント計画より 改築シナリオ検討

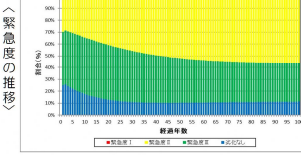
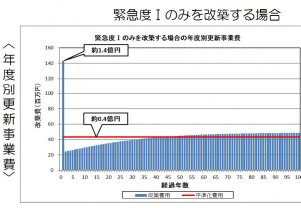
【シナリオB-1】標準耐用年数50年を経過した



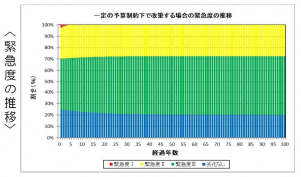
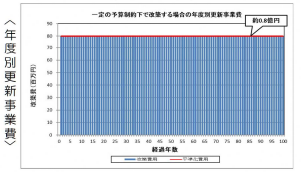
【シナリオB-3】健全率予測式から算出した
緊急度Ⅰ、Ⅱを改築する場合



【シナリオB-2】健全率予測式から算出した
緊急度Ⅰのみを改築する場合



【シナリオB-4】一定の予算制約下で改築する場合
(0.8億円/年)



(4)シナリオBの評価

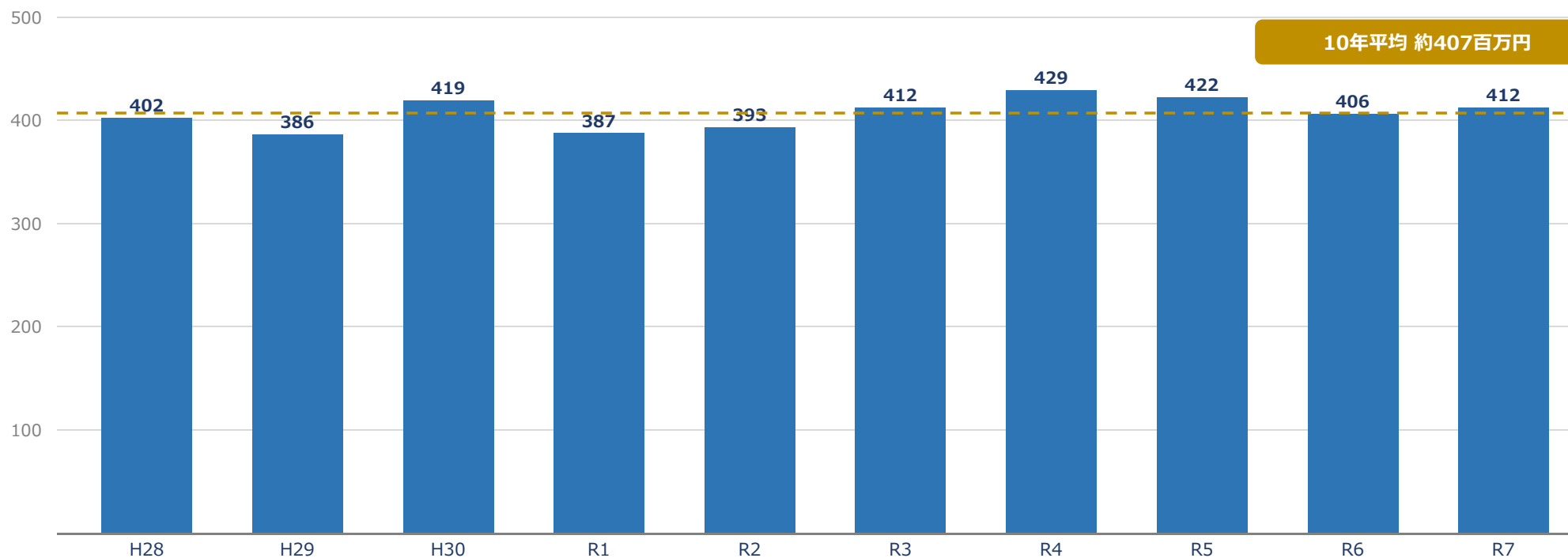
シナリオB-1	①緊急度の推移傾向	・100年後の緊急度Ⅰ : 7.5 % ・100年後の緊急度Ⅱ : 19.0 %	×
	②改善の効率性	・年平均健全度 : 2.97 ・年平均改築延長 : 0.9 km ・指標値(健全度/延長) : 3.40	△
	③投資額の実現性	・年平均改築費用 : 1.2 億円	△
	総合評価	年平均改築費用が約2.1億円と高く、ピーク時には約14.1億円の改築費が必要となるため、財政的に厳しい。	×
シナリオB-2	①緊急度の推移傾向	・100年後の緊急度Ⅰ : 0.8 % ・100年後の緊急度Ⅱ : 55.4 %	△
	②改善の効率性	・年平均健全度 : 2.63 ・年平均改築延長 : 0.3 km ・指標値(健全度/延長) : 8.54	○
	③投資額の実現性	・年平均改築費用 : 0.4 億円	○
	総合評価	年平均改築費用が0.4億円と最も低く、指標値も高いが、100年後の緊急度Ⅱの割合が55.4%と高い。	△
シナリオB-3	①緊急度の推移傾向	・100年後の緊急度Ⅰ : 0.0 % ・100年後の緊急度Ⅱ : 1.8 %	○
	②改善の効率性	・年平均健全度 : 3.27 ・年平均改築延長 : 0.9 km ・指標値(健全度/延長) : 3.70	△
	③投資額の実現性	・年平均改築費用 : 1.2 億円	△
	総合評価	緊急度Ⅰ、Ⅱの割合が極めて低いため、管路の健全度は高いが、年平均改築費用が1.2億円と高いため、財政的に厳しい。	△
シナリオB-4	①緊急度の推移傾向	・100年後の緊急度Ⅰ : 0.0 % ・100年後の緊急度Ⅱ : 27.6 %	△
	②改善の効率性	・年平均健全度 : 2.93 ・年平均改築延長 : 0.6 km ・指標値(健全度/延長) : 5.13	○
	③投資額の実現性	・年平均改築費用 : 0.8 億円	○
	総合評価	年平均改築費用が0.8億円で投資可能な範囲であり、指標値も高いため、最も現実的なシナリオである。	○

	調査環境下				一般環境下(幹線管渠+枝線ヒューム管)				概算費	ストックマネジメント見直し
	点検	調査	設計	修繕・改築	点検	調査	設計	修繕・改築		
1年目	26箇所 1,014,000				68箇所 2,652,000				3,666,000	
2年目	26箇所 1,014,000	472m 1,368,800			68箇所 2,652,000	1,035m 3,001,500			8,036,300	
3年目	26箇所 1,014,000	472m 1,368,800	142m 4,544,000		68箇所 2,652,000	1,035m 3,001,500	311m 9,952,000		22,532,300	
4年目	26箇所 1,014,000	472m 1,368,800	142m 4,544,000	142m 19,880,000	68箇所 2,652,000	1,035m 3,001,500	311m 9,952,000	311m 43,540,000	85,952,300	
5年目	26箇所 1,014,000	472m 1,368,800	142m 4,544,000	142m 19,880,000	68箇所 2,652,000	1,035m 3,001,500	311m 9,952,000	311m 43,540,000	85,952,300	
6年目	26箇所 1,014,000	472m 1,368,800	142m 4,544,000	142m 19,880,000	68箇所 2,652,000	1,035m 3,001,500	311m 9,952,000	311m 43,540,000	85,952,300	
7年目	26箇所 1,014,000	472m 1,368,800	142m 4,544,000	142m 19,880,000	68箇所 2,652,000	1,035m 3,001,500	311m 9,952,000	311m 43,540,000	85,952,300	
8年目	26箇所 1,014,000	472m 1,368,800	142m 4,544,000	142m 19,880,000	68箇所 2,652,000	1,035m 3,001,500	311m 9,952,000	311m 43,540,000	85,952,300	
9年目	26箇所 1,014,000	472m 1,368,800	142m 4,544,000	142m 19,880,000	68箇所 2,652,000	1,035m 3,001,500	311m 9,952,000	311m 43,540,000	85,952,300	
10年目	26箇所 1,014,000	472m 1,368,800	142m 4,544,000	142m 19,880,000	68箇所 2,652,000	1,035m 3,001,500	311m 9,952,000	311m 43,540,000	85,952,300	
11年目	26箇所 1,014,000	472m 1,368,800	142m 4,544,000	142m 19,880,000	68箇所 2,652,000	1,035m 3,001,500	311m 9,952,000	311m 43,540,000	85,952,300	
12年目	26箇所 1,014,000	472m 1,368,800	142m 4,544,000	142m 19,880,000	68箇所 2,652,000	1,035m 3,001,500	311m 9,952,000	311m 43,540,000	85,952,300	
13年目	26箇所 1,014,000	472m 1,368,800	142m 4,544,000	142m 19,880,000	68箇所 2,652,000	1,035m 3,001,500	311m 9,952,000	311m 43,540,000	85,952,300	
14年目	26箇所 1,014,000	472m 1,368,800	142m 4,544,000	142m 19,880,000	68箇所 2,652,000	1,035m 3,001,500	311m 9,952,000	311m 43,540,000	85,952,300	
15年目	26箇所 1,014,000	472m 1,368,800	142m 4,544,000	142m 19,880,000	68箇所 2,652,000	1,035m 3,001,500	311m 9,952,000	311m 43,540,000	85,952,300	
合計	390箇所 15,210,000	6,608m 19,163,200	1,846m 59,072,000	1,701m 238,560,000	1,020箇所 39,780,000	4,043m 42,021,000	3,732m 129,376,000	3,732m 522,480,000	1,065,662,200	
平均	26箇所 1,014,000	441m 1,277,547	123m 3,938,133	114m 15,904,000	68箇所 2,652,000	966m 2,801,400	270m 8,625,067	249m 34,832,000	71,044,147	

R6ストックマネジメント計画より 点検調査計画

これまでの経営努力営業経費の抑制

3条（営業費用）の経費は、過去10年間ほぼ横ばいで推移しています。（単位：百万円）
物価上昇や施設の老朽化が進むなかでも、委託・修繕の見直しなどにより営業経費の増加を抑制してきました。



物価上昇・施設老朽化のなかでも営業経費を約407百万円前後に抑制 ― これまでの経営努力により増加を最小限にとどめています

これまでの経営努力 まとめ

これまでの経営状況（3条・4条収支）

収益的収支（3条予算）－ 毎年の経営

これまで黒字経営を継続し、毎年の事業運営は安定して成り立ってきました。
（R7：純利益 +56百万円。10年間ほぼ黒字を維持）

資本的収支（4条予算）－ 将来の施設整備

補填財源で収支不足を補いながら、可能な枠内で計画的に建設改良を進めてきました。
（収支不足は補填財源使用可能額の範囲内で対応）

経営努力のポイント

① 収入の確保

有収率の向上

節水で有収水量は横ばいながら、有収率は10年間で +4.4ポイント上昇。

② 効率的な施設更新

ストックマネジメント計画

劣化状況を踏まえた計画を策定し、無駄のない更新投資に取り組み。

③ 営業費用の抑制

委託・修繕費等の見直し

物価上昇や老朽化のなかでも、営業経費を10年間ほぼ横ばい（約407百万円）に抑制。

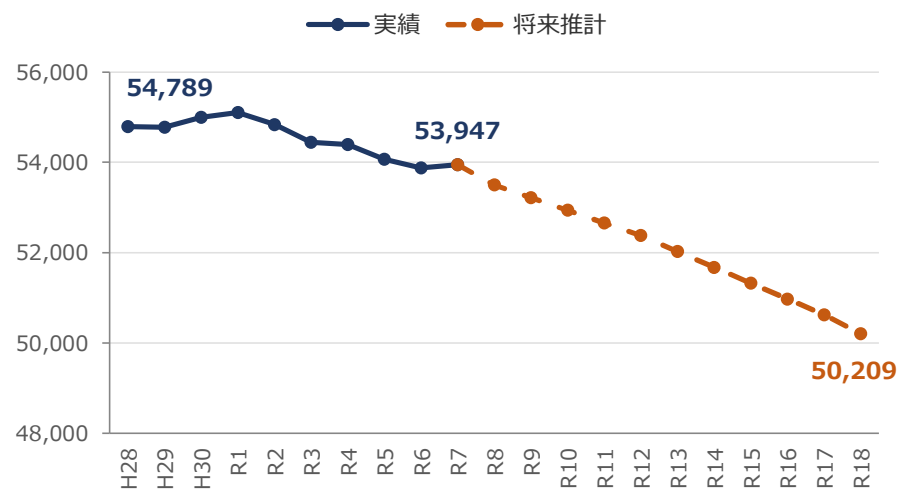
今後、施設の老朽化・物価上昇に伴う経費の増大により、これまで保ってきた経営状況は大きく変化する見込みです。

人口減少と有収水量の見通し

行政区域内人口は今後も減少傾向にあると推定されます。
有収率の実績値は向上していますが、人口減少により、使用水量も減少していくと予想されます。

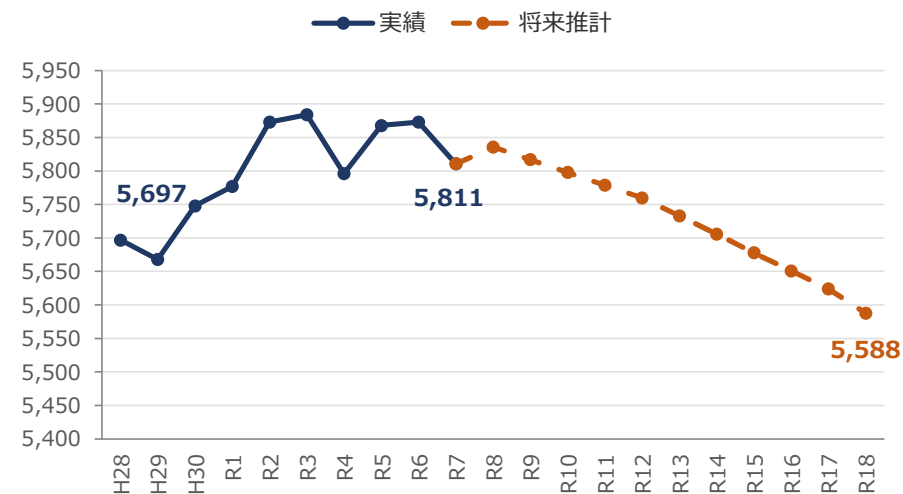
※有収率…汚水処理量のうち、下水道使用料が支払われている割合のこと

行政区域内人口の推移と将来推計（人）



将来推計には社人研予測を基に実績値を補正した値を用いる

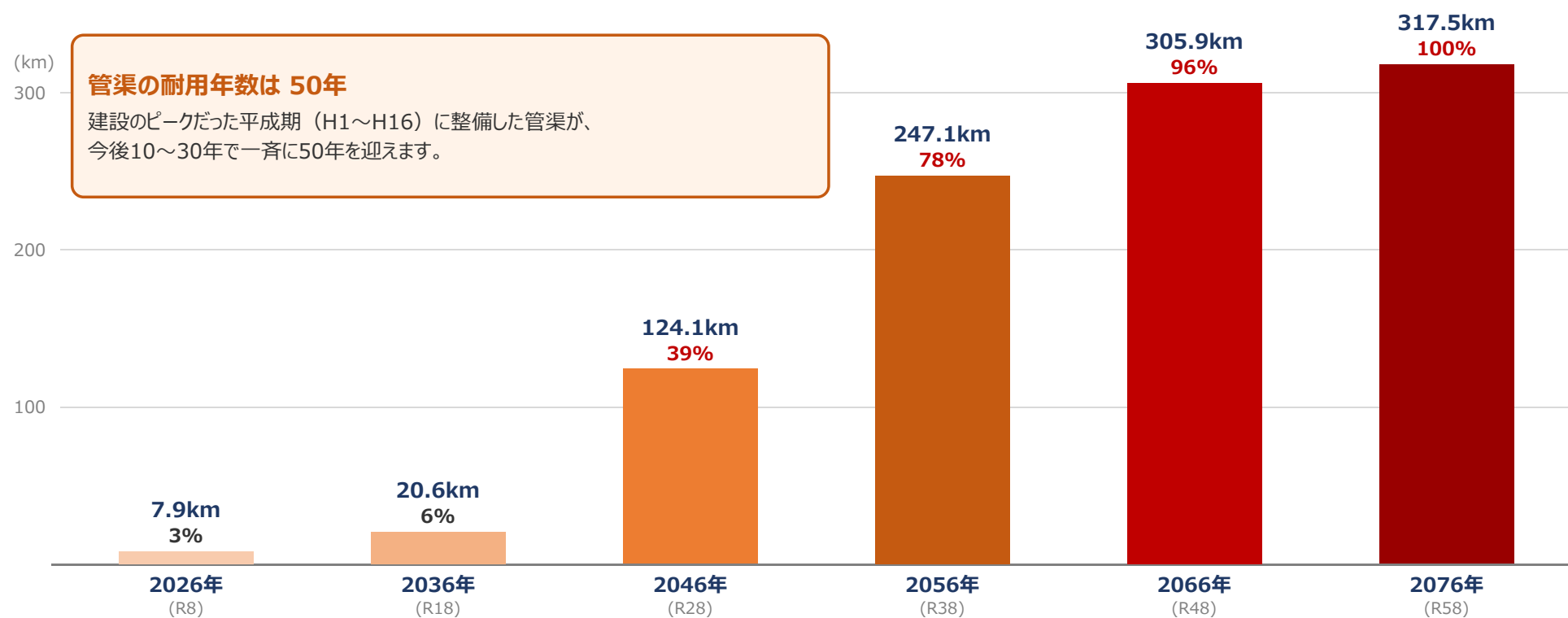
有収水量の推移と将来推計（千 m^3 ）



人口減少はR18年度以降も進むと推定され、将来の使用水量・料金収入の減少が、経営状況を圧迫する見込みです

老朽化施設の増加

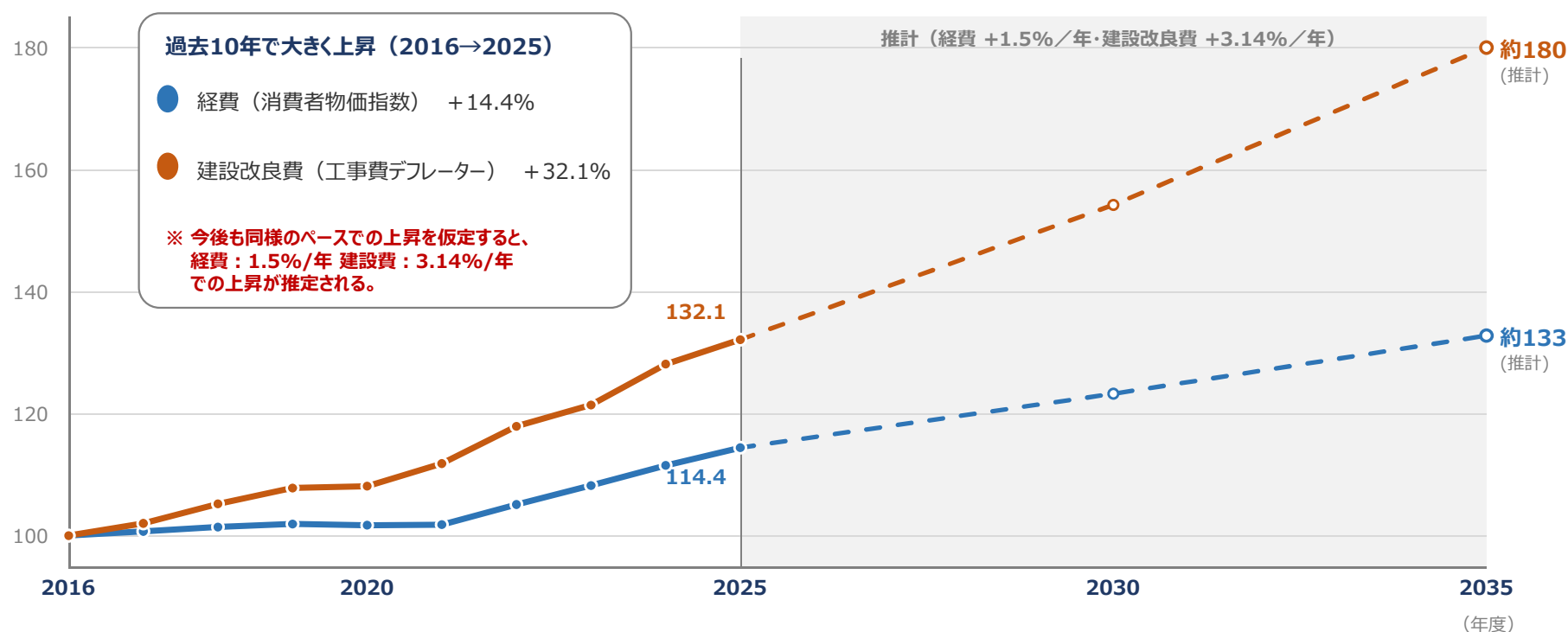
管渠（管路）の耐用年数は50年。これまで整備してきた管渠が今後続々と50年を経過し、改築・更新が必要な老朽管が急増します。（管理する管渠 総延長 約317.5km）



50年を超える管渠は2046年に約4割、2056年には約8割へ急増 — 計画的な改築・更新（ストックマネジメント）が不可欠です

物価上昇による経費の上昇

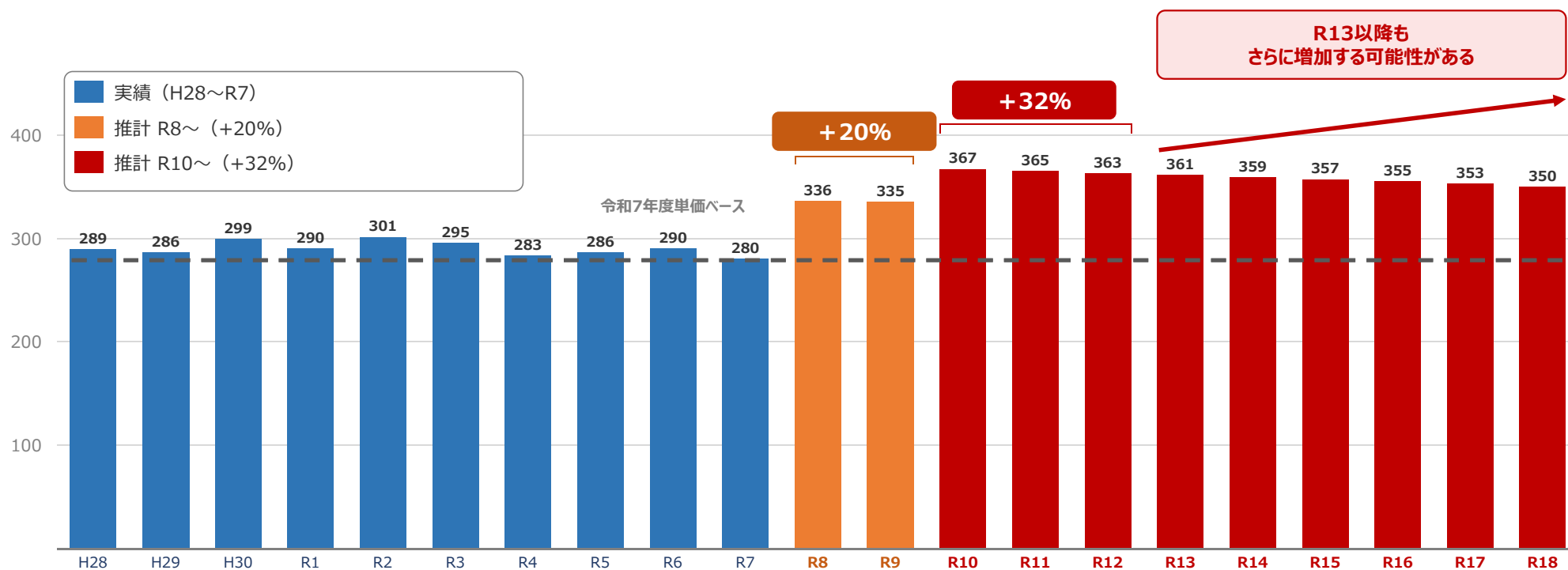
過去10年間で、消費者物価指数（薬品・動力費等の経費）も建設工事費デフレーター（建設費）も上昇を続けています。
この傾向から、今後も一定ペースで経費・建設費が上昇していくと推定されます。（指数：2016年度＝100）



過去10年の上昇傾向から、今後も一定ペースで経費・建設費の増加が見込まれ、将来の収支を一層圧迫します

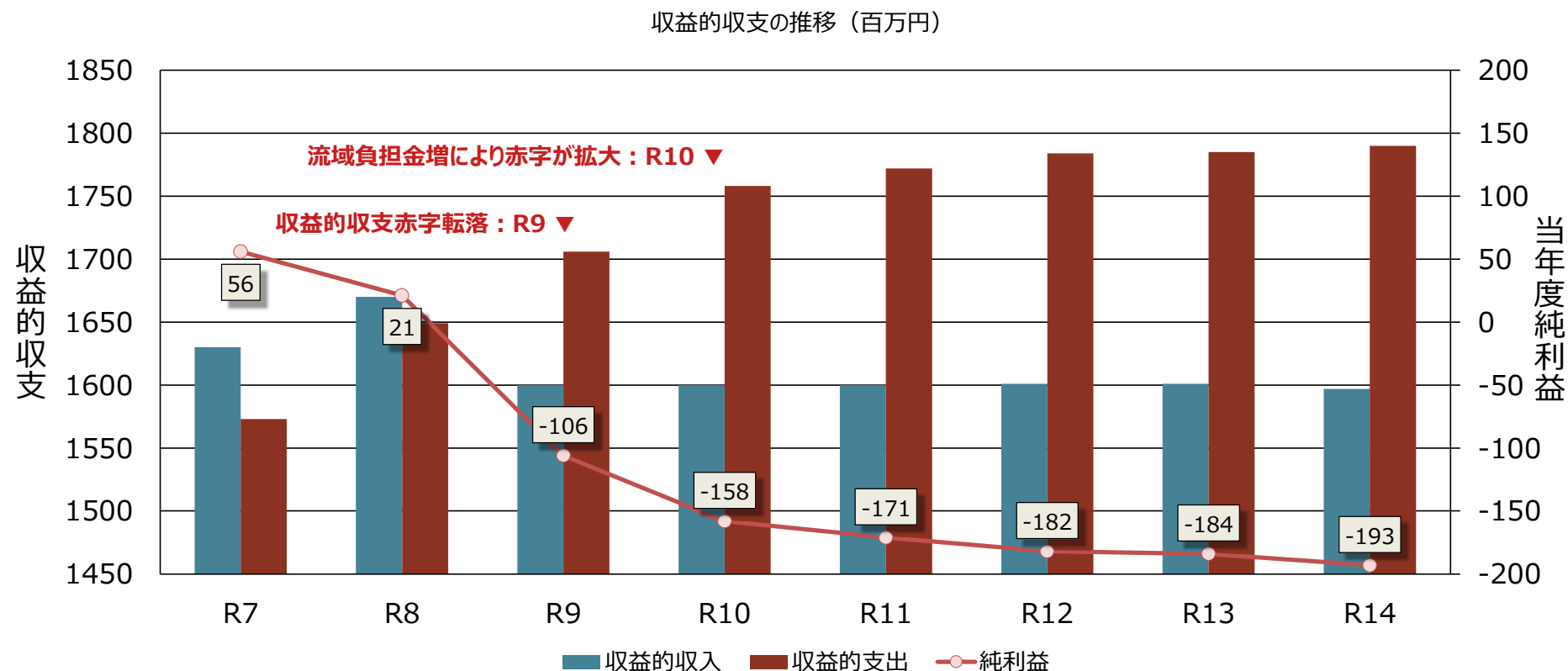
滋賀県汚水処理負担金の増額

流域下水道（琵琶湖流域）の維持管理・建設費用を流域市町で負担する「滋賀県汚水処理負担金」。
令和7年度単価を基準に、R8で+20%、R10で+32%へと段階的な増額が見込まれます。（単位：百万円）



滋賀県汚水処理負担金は令和7年度単価を基準にR8で+20%・R10で+32%へと段階的に増額 — 処理費の増加が今後の収支を圧迫します

今後の収益的収支見通し（現行料金を維持した場合）



現行料金体系を維持した場合、令和9年度以降は赤字が継続し、令和13年度以降はさらに拡大する見込みです

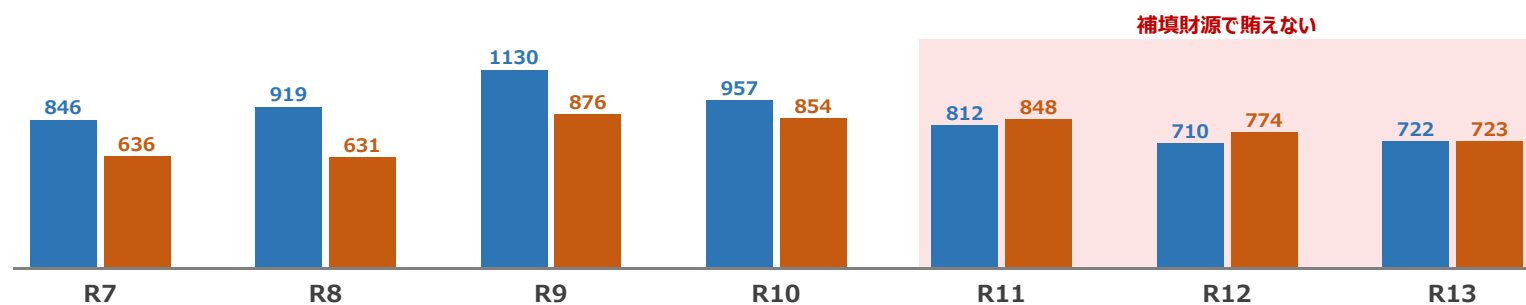
今後の資本的収支見通し（現行料金を維持した場合）

（単位：百万円）	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
資本的収入	911	1454	1057	897	875	764	861
資本的支出	1547	2085	1934	1751	1723	1538	1584
不足額	636	631	876	854	848	774	723
補填財源使用可能額	846	919	1130	957	812	710	722
補填財源不足額（累積）	0	0	0	0	36	100	101

（百万円）

■ 補填財源使用可能額

■ 不足額（収支差）



令和11年度には、設備投資を賄うための内部留保金（補填財源）も不足する見込みです

経営指標の説明（各指標の意味と算式）

下水道経営の健全性は、次の4つの指標で評価します。
経費回収率・経常収支比率が100%を下回ると、構造的な赤字が毎年続くことを示します。

使用料単価（円/m³）

皆様から頂く下水道料金の平均的な金額。

算式：下水道使用料 ÷ 有収水量

汚水処理原価（円/m³）

汚水をきれいな水に処理するために必要な費用の平均的な金額。

算式：（収益的支出計 - 公費負担分） ÷ 有収水量

経費回収率（%）

皆様から頂く下水道料金と、汚水を処理する費用を比較した値。

算式：使用料単価 ÷ 汚水処理原価

経常収支比率（%）

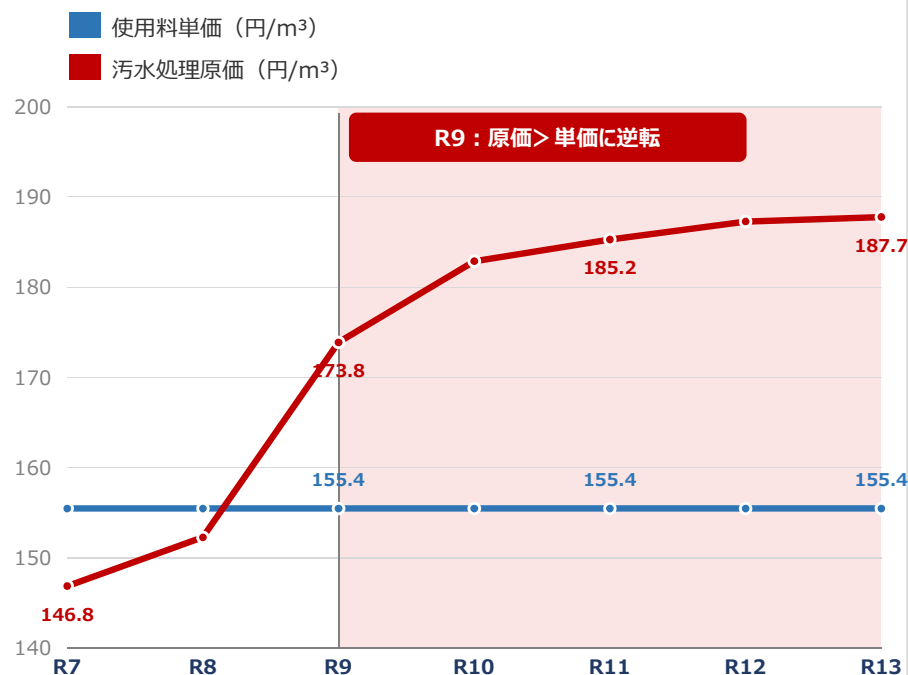
毎年の事業運営における収入と支出を比較した値。

算式：収益的収入 ÷ 収益的支出

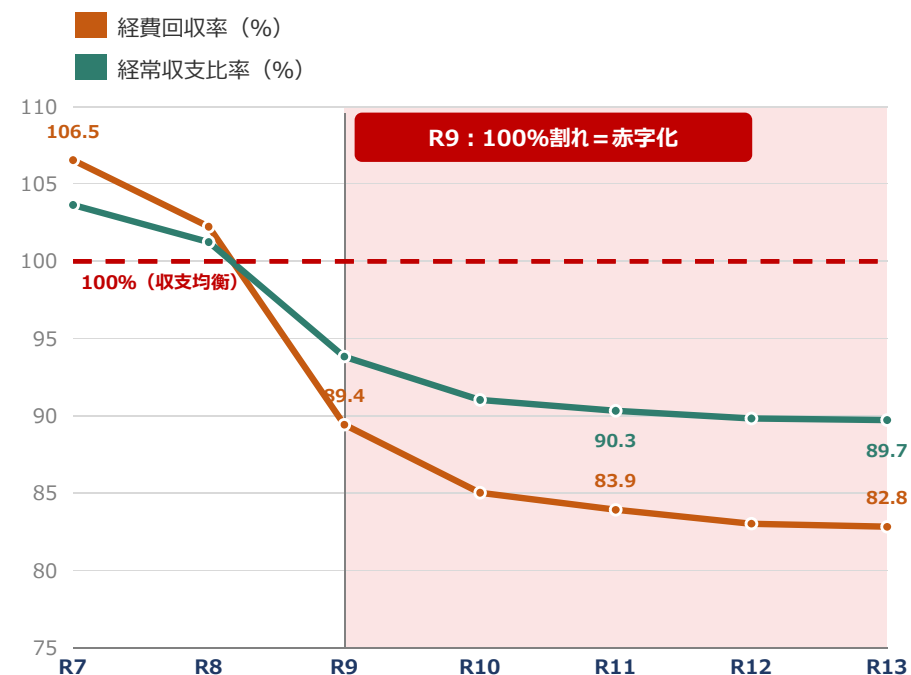
今後の経営指標の悪化予想（現行料金を維持した場合）

使用料単価を据え置いたまま汚水処理原価が上昇するため、R9年度に原価が単価を逆転します。
これに伴い経費回収率・経常収支比率はともに100%を下回り、毎年の経営（3条収支）が赤字化します。

使用料単価と汚水処理原価（円/m³）



経費回収率と経常収支比率（%）



現行料金のままではR9年度に原価が単価を逆転し、経費回収率・経常収支比率が100%を割り込む — 構造的な赤字経営に陥ります

今後の経営状況の変化 まとめ

第4章で確認した今後の経営環境の変化と、収支・経営指標への影響を整理します。

経営環境の変化（要因）

- 施設の老朽化が進行し、更新・耐震化の投資需要が増大
- 物価・人件費・資材費の高騰で経費・建設改良費が上昇
- 滋賀県污水处理負担金が増額（R8：+20%/R10：+32%）



収支・経営指標への影響

収益的収支（3条）

令和9年度以降、赤字決算の見込み

資本的収支（4条）

令和11年度以降、更新・企業債償還に必要な資金が不足

経営指標の悪化

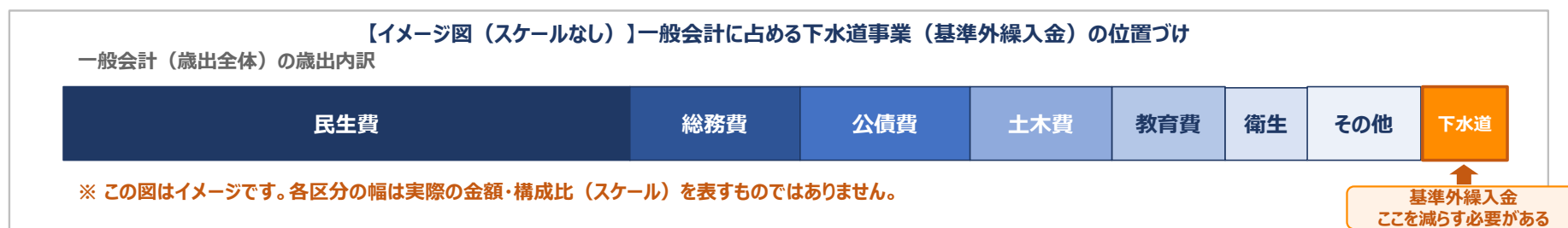
R9に原価が単価を逆転、経費回収率・
経常収支比率がともに100%を割り込む

現行料金を維持した場合、構造的な赤字経営に陥る見込み — 持続可能な経営に向けた料金体系の見直しが必要です

今後の経営課題 基準外繰入金の削減

基準外繰入金に頼ることの問題点

基準外繰入金は本来、福祉・教育等に充てられる一般会計の財源を圧迫します。



基準外繰入金に頼り続けることの問題点

① 他の住民サービスを圧迫

福祉・教育・土木など、本来一般会計が担うべき分野に回せる財源が減少します。

② 独立採算の原則に反する

公営企業は使用料で費用を賄うのが原則。繰入金頼みは経営の自立を損ないます。

③ 将来世代へ負担を先送り

依存が続くと市財政が硬直化し、人口減少局面で持続が難しくなります。

基準外繰入金への依存は一時しのぎにすぎず、市全体の財政と下水道事業の持続可能性を損ないます。

今後の経営課題 基準外繰入金の削減

一般会計繰入金の現状

今年度予算における、一般会計繰入金の状況を示します。（単位：百万円）

基準内繰入金

470 百万円

ルールに基づく繰入（3条 326+4条 144）

基準外繰入金

170 百万円

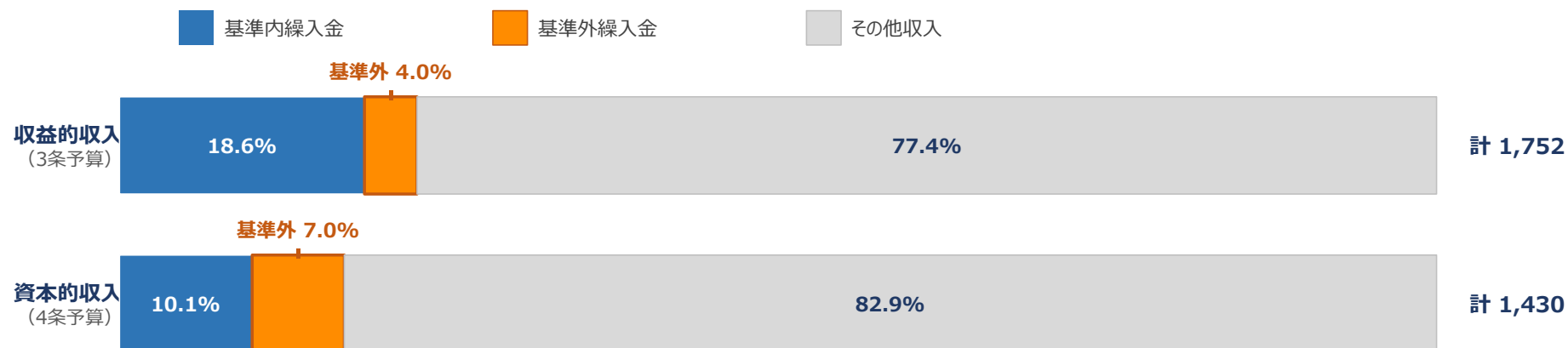
削減対象（3条 70+4条 100）

繰入金 合計

640 百万円

一般会計からの繰入総額（基準内+基準外）

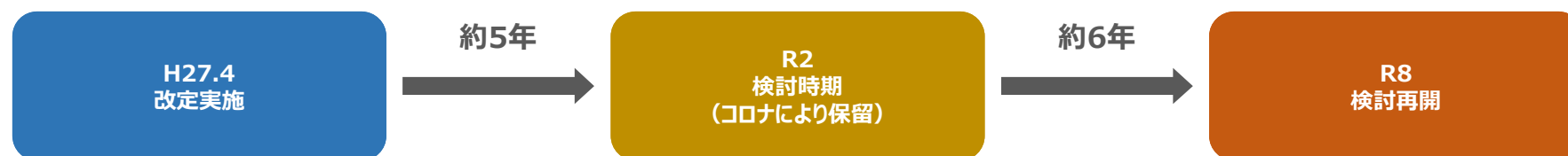
予算別の繰入金内訳（収益的収支・資本的収支）



基準外繰入金は3条7千万円・4条1億円の計1億7千万円。可能な限り基準外に頼らない経営を進め、その削減を図ります。

これまでの料金見直しの経過

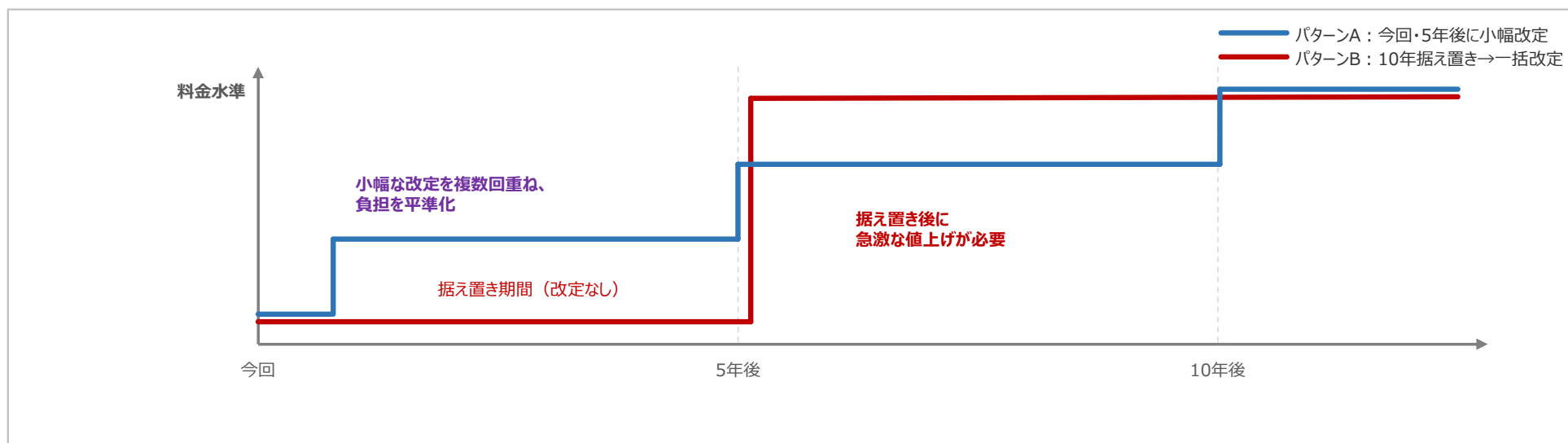
- 前回の料金改定は平成27年4月で、すでに約10年が経過しています。
- 国では、将来予測の不確実性を避けるため、3～5年程度ごとの見直しが望ましいとされています。
- 見直しの目安であった令和2年度は、新型コロナウイルスの影響下にありました。
感染症対策として国の経済対策補助金を活用し、使用料の減免を行ったため、
改定の検討はいったん見送りました。
- このたび、下水道事業経営戦略（令和6年度策定）に合わせ、改めて現状を整理いたしました。



経営状態が悪化し、定期見直し時期も超過していることから、改定検討の再開が必要な状況にあります

定期的な見直しの重要性

- 10年間改定を行わなかった結果、次回改定時に大幅値上げが必要となるリスクがあります
- 国の目安では3～5年程度での定期的な見直しが推奨されています
- 定期的な見直しが、市民負担の平準化につながります



今回改定を行うことで、将来の急激な値上げを防ぎます

料金改定検討の必要性（まとめ）

これまでの経営状況と今後の見通しを整理すると、料金改定の検討が必要な理由は、次の点に集約されます。

1

費用増加の構造化 — 今後も負担増が重なる

県への汚水処理負担金の増額、物価・建設費の上昇、施設の老朽化・耐震化への継続的な投資が、今後も重なって続きます。

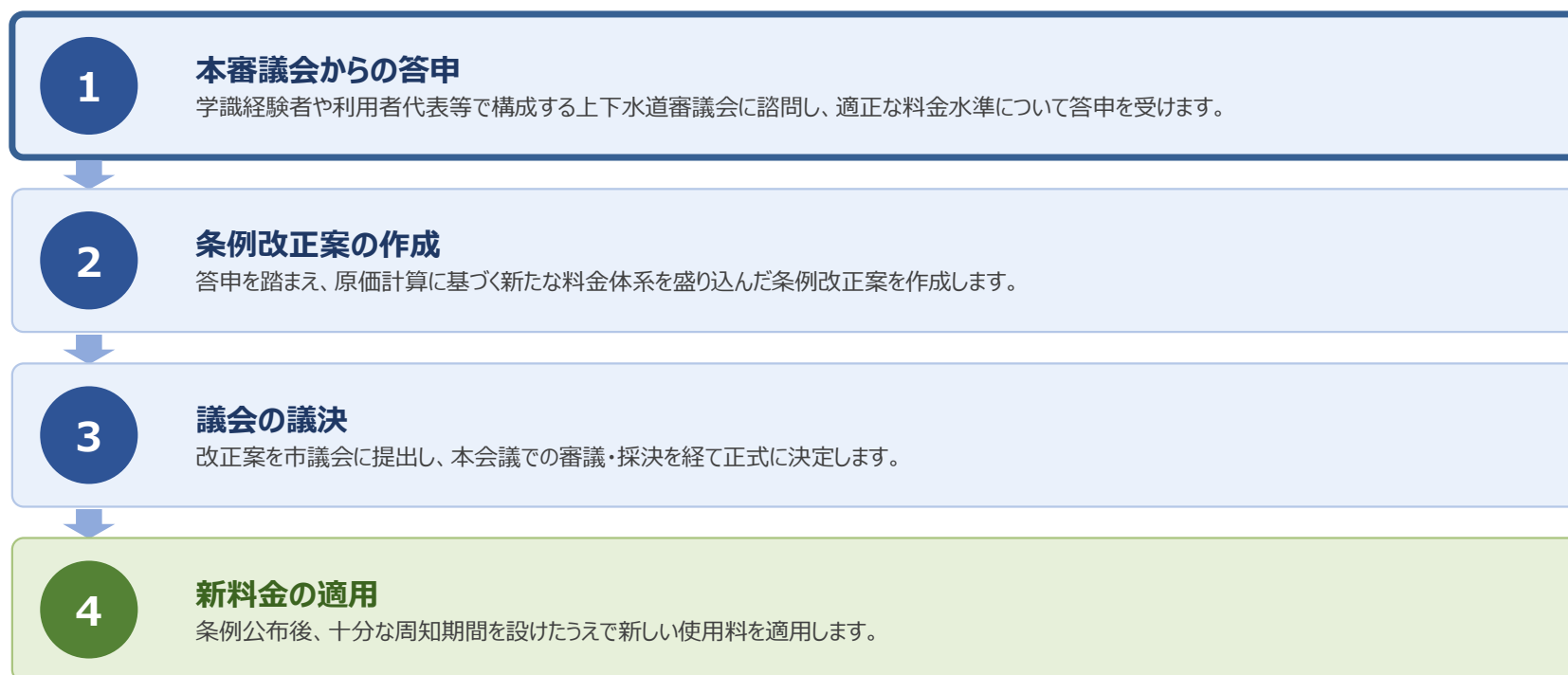
2

収支構造の逆転 — 使用料で費用をまかなえなくなる

R9年度に汚水処理原価が使用料単価を逆転し、構造的な赤字経営に陥ります。

使用料改定の流れ

下水道使用料は市の条例で定められており、料金を改定するには、本審議から議会の議決まで、次の4つの手順を順番に進める必要があります。



今後の審議スケジュール

令和8年度の審議会から令和10年度の新料金適用までのロードマップです。

R8年度 審議会による検討

- 6月 委員決定（12名）
- 7月 第1回審議会 ← 本日**
- 9月 第2回審議会（改定率検討）
- 11月 第3回審議会（料金体系・答申骨子検討）
- 1月 第4回審議会（答申確認）
- 2月 答申提出

R9年度 条例改定・市民周知

- 6月 条例改定を議会上程
- 以降 HP・広報・説明会等により周知

R10年度 新料金適用開始

- 4月 改定後の使用料体系による請求を開始**

本日のまとめ

本日お伝えしたい3つのポイント

1

下水道は市民生活と琵琶湖の水環境を支える重要なインフラです

湖南市では、これまで計画的な整備により、普及率98.9%、水洗化率97.6%まで下水道整備を進めてきました。

2

これまでは経営努力により安定運営を続けてきました

有収率の向上、ストックマネジメントによる効率的な更新投資、経費抑制などに取り組み、これまで黒字経営を維持してきました。

3

今後は赤字化・資金不足が見込まれるため、料金体系の見直し検討が必要です

人口減少、物価上昇、流域負担金の増額、施設老朽化により、現行料金のままでは令和9年度以降に赤字化し、令和11年度以降には補填財源も不足する見込みです。

令和10年度からの新料金体系を見据え、今年度中に段階的な審議を進めます。

次の世代へ、下水道を引き継ぐために

下水道は、今日の暮らしだけでなく、子どもたちや次の世代の暮らしを支える基盤です。

普段は見えない、暮らしの土台

湖南省の下水道は市民生活の衛生環境と琵琶湖の水環境を守るため、長い年月をかけて整備されてきた大切な公共インフラです。

これらは、毎日の暮らしを静かに支えています。

向き合うべき、現実の課題

人口減少により、使用料収入は伸びにくい状況

老朽化した管路の更新が必要

物価・建設費、流域負担金が上昇

限られた人員・予算の中で、計画的に守る必要がある

今の便利さを、次の世代にも当たり前に残していくために。

そのための一歩として、料金体系の見直しを考えていきます。

ご質問・ご意見を願います

いただいたご意見は第2回審議会の資料に反映いたします